

このニュースレターは、羽田空港の現在の飛行経路に関する影響軽減及び国土交通省が提案する国際線増便のための取組について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために定期的に発行しています。

千葉県内3箇所で市民相談会が開催されました

2018年3月、羽田空港の現在の運用やこれまでの騒音軽減方策について市民の皆さまに説明するとともに、2020年に向けた羽田空港の国際線増便に向けた取組や、更なる影響軽減方策の検討状況、前回の市民相談会でいただいたご意見への対応等について情報提供を行う事を目的に、2回目となる市民相談会が千葉県内3会場にて開催されました。

200名以上の方が参加

市民相談会は、より多くの皆さまに来場いただき、一人ひとりの声を聞けるよう、オープンハウス型で行われました。

各地域の皆さまのご関心に応じた形で、パネルを用いて地域の皆さまの質問や疑問にお答えしました。

また、開催期間中は、のべ200名を超える方々に来場いただき、さまざまなご意見や質問、相談等が寄せられました。

	開催日	会場
千葉市会場	2018年3月3日(土)	イオンスタイル鎌取
船橋市会場	2018年3月11日(日)	船橋市勤労市民センター
木更津市会場	2018年3月25日(日)	イオンモール木更津

※時間はいずれも11:00～17:00



市民相談会（千葉市会場）の様子



市民相談会（船橋市会場）の様子



市民相談会（木更津市会場）の様子

今回の市民相談会での主な説明内容

羽田空港の現状および現在の運用と、これまでの影響軽減の方策

- 羽田空港は国内に豊富な路線を有し、地方と世界をつなぐ大切な役割を担っています。
- 航空機は、安全のために定められた国際ルールに沿って飛行しています。また、安定した離着陸を行うためには、風に向かって離着陸する必要があり、羽田空港では、南風時と北風時の2つの運用が行われています。
- 2010年に4本目の滑走路が供用開始されましたが、地域の騒音影響を軽減するため、着陸開始高度の引き上げなど、さまざまな工夫が講じられています。
- 技術の発展や国際基準の強化により、航空機は以前より静かになっており、また、羽田空港は、約半分を音が小さい小型機が占めるようになっています。



国際線増便に向けた方策の検討内容と影響の変化

- 日本の経済・社会を維持・発展させていくためには諸外国との結びつきを深めることが重要であり、訪日外国人旅行者などの増加に対応するため首都圏空港の機能強化が検討されています。
- 羽田空港に関しては、滑走路の使い方・飛行経路を見直すことにより、国際線増便が可能となります。（現在予定されている飛行経路は右図のとおりです）
- 南風時は国際線の需要が集中する夕方の3時間において、着陸機が都心側から着陸する新たな飛行ルートを通るため、千葉県における現在の南風時の到着経路の総便数は減少する見込みです。



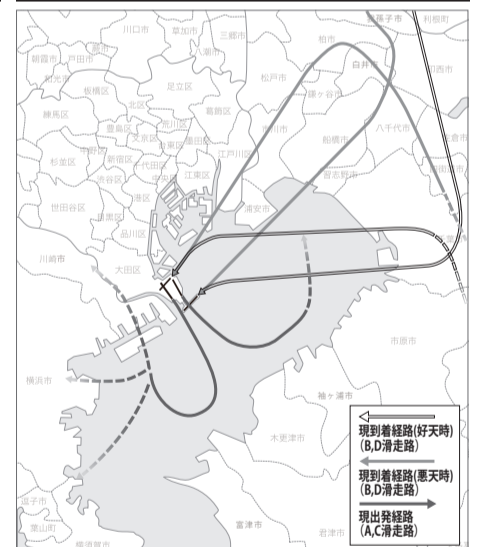
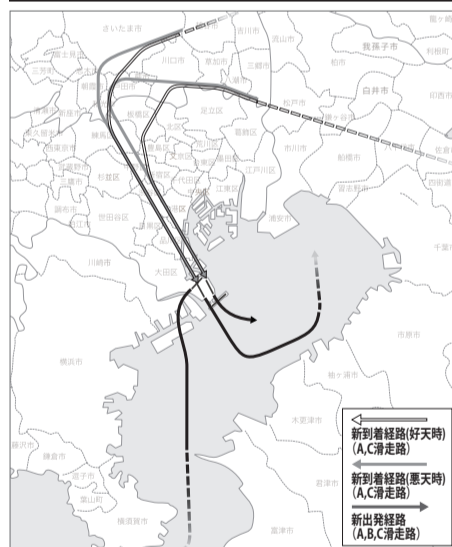
その他の更なる影響軽減のための方策と引き続きの情報提供

- 北風経路下における影響が増えないようにするため、北風時の全時間帯において、陸域を通らない富津沖海上ルートの活用拡大を図るべく、海ほたるの航空灯の輝度を向上させる工事を行い、2018年度にその運用を開始する予定です。
- より静かな航空機を促すため、国際線着陸料を2017年4月に見直しました。
- 騒音影響を軽減するため、朝6時台や夜22時台など、特に影響の大きい時間帯に重点的な配慮を行うことなどにより、トータルでの影響軽減を図ります。
- 市民相談会やニュースレターなどさまざまな手法を使って、引き続き、これからの羽田空港の国際線増便の取組について、幅広い情報発信や丁寧な情報提供が行われます。

南風時（6時～23時）運用の割合は約4割（年間平均）

15～19時のうち約3時間（新たな飛行経路）

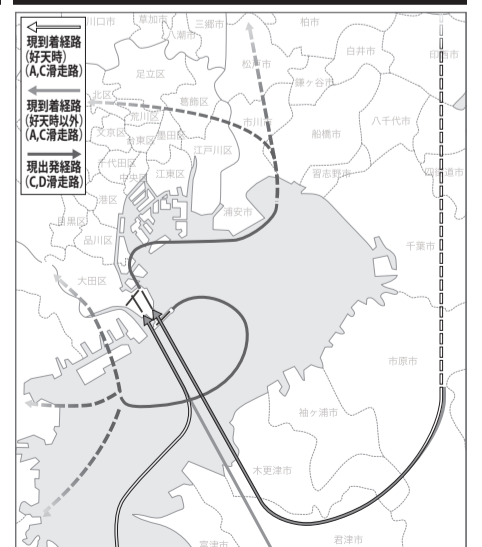
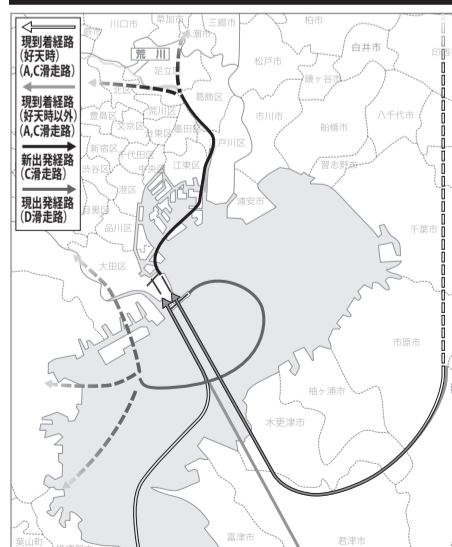
それ以外の時間帯（現行と同じ飛行経路）



北風時（6時～23時）運用の割合は約6割（年間平均）

7～11時半及び15～19時のうち約3時間（新たな飛行経路）

それ以外の時間帯（現行と同じ飛行経路）



※ 市民相談会に使用された説明パネルや、より詳細な飛行経路見直しの具体的な内容や、影響の変化について記載されたニュースレター地域特別号2016年冬号・2018年立春号は、ホームページ（アドレスは裏面）から確認する事が出来ます。

引き続き影響軽減策の具体化を進めています



市民相談会でいただいたご意見を踏まえて、今後もさまざまな対策の検討・実施が進められます。
市民相談会で皆さまから寄せられたご意見（要旨）は以下のとおりです。

ご意見の整理方法

寄せられたご意見は、主張や要望の理由となっている皆さまの関心事に着目して整理しています。
少数意見であっても配慮すべき関心事にはしっかり着目する必要があるため、意見数の多寡にとらわれず整理しています。

現飛行経路の課題と対応方策

現飛行経路に関わる課題

[音]

- 千葉は現況でも飛行機の音に悩まされているので、騒音を減らしてほしい。
- 飛行機の性能の向上や便数の減少などにより、千葉では以前よりも音の問題は減ってきている。

[飛行への不安]

- 千葉市上空で飛行経路が交差することによる事故の発生が心配。
- 飛行機が通過することに不安を感じる。

[便数]

- 現行の飛行経路での運航便数をできる限り減らしてほしい。

[経路]

- 着陸時の直線進入区間が長すぎる。もっと空港の近くで旋回するようにしてほしい。

現飛行経路の課題への方策

[騒音対策]

- 現飛行経路の早朝や夜間の音の影響を減らしてほしい。
- 高度をできるだけ上げてほしい。
- 現行の飛行ルートができるだけ海の上などとしてほしい。
- 富津沖海上ルートにより一層の活用により、陸上への影響が少な

くなることを期待している。

- 現状の千葉市上空での飛行経路の交差を無くしたり、位置を変更するなどにより、交差による騒音を解消してほしい。
- 騒音対策、安全対策の工夫がなされているが、更なる騒音への対策をしてほしい。
- これまで既に騒音対策をしてきた地域、施設に対しても、更なる対策の強化や補助をしてほしい。
- 千葉への音の影響が軽減されるような、新飛行経路や運用時間帯としてほしい。

[機体]

- 飛行機の騒音をより小さく抑える方策を検討してほしい。
- 騒音を抑制するために、大型機の制限を検討してほしい。
- 騒音レベルの高い機体の使用は制限してほしい。

[環境モニタリング・計測]

- 現飛行経路の騒音を測定し、生活への影響を十分に調査してほしい。
- 騒音の感じ方に関する音質なども含めて、測定や評価をしっかりと行ってほしい。

安全上の方策に関すること

[安全対策の確実な実施]

- 事故が起きないように、万全の対策を講じてほしい。

[その他]

- 羽田空港の利便性向上は地域にとって望ましい。

羽田空港国際線増便の実現方策

[飛行経路・滑走路運用・空域等の変更]

- 新飛行経路の検討において、横田空域の影響を受けているのではないかと。空域の変更や拡大などにより、多様な経路が検討できるのではないかと。

[滑走路増設]

- 抜本的な課題解決のためには、新たな滑走路増設とそれに合わせた飛行経路見直しの検討が必要ではないかと。

[国際線と国内線の枠のバランス]

- 国際線だけでなく国内線の便数も増やしてほしい。

実現方策に関わる心配、懸念

[音]

- 現況でも羽田空港や成田空港に往来する飛行機による音に悩まされているので、これまで以上に騒音が増えるのは心配だ。
- 千葉における新たな飛行経路では、高高度で設定されているた

■：これまでに寄せられたご意見の要旨

○：2018年3月に開催した住民説明会で新たに寄せられたご意見の要旨

[各分野の安全対策（機体、航空従事者、管制・空港など）]

- 安全性の向上のために、パイロットや管制官等の教育や心身の健康検査を徹底してほしい。
- 機体整備やパイロットの定期的なチェックをより厳しくすべき。

飛行経路の見直し等による影響軽減方策

[飛行経路]

- 騒音が少しでも軽減されることを期待しているため、夕方の新飛行経路での運航を早く実施してほしい。
- 現行の飛行経路は千葉県に集中しすぎていると思うので、経路の変更や東京との分散化を進めてほしい。

[運用時間]

- 新飛行経路の午後の運用は夕方に限定し、夜遅くまで運用するのはやめてほしい。
- 提案されている夕方の時間帯であれば問題ないのではないか。
- 新飛行経路での運用時間をもっと長くすれば、現飛行経路を通る飛行機が減り、現状の騒音の解消につながるのではないか。
- 現状の夜の騒音が気になるので、新飛行経路の運用を夜間にし、分散させてほしい。
- 新飛行経路を導入しても千葉の負担は変わらないのではないか。

め、騒音などの影響はあまり気にならないのではないか。

- 想定される音を体験したことで影響が判断できた。不安が解消できて良かった。
- 朝から夜遅くまで騒音があると、子供の学習への支障が心配。

[便数]

- 羽田空港の機能強化により、現飛行経路の1時間あたりの運航本数が、それほど増えないと聞いて安心した。

[安全]

- 新飛行経路は人の多い街中や住宅地を低空で飛行するので、事故によるリスクが高いのではないかと。
- 飛行機同士が衝突する事故が起きないか心配だ。

[落下物]

- 千葉市上空のルートは落下物が心配だ。

[その他]

- 人の往来が増えることで、伝染病などのリスクが心配だ。
- 飛行機がテロの標的とならないか心配だ。

賛否のみの意見（必要性、実現方策）

- 羽田空港の国際線の増便に期待している。
- 羽田空港の機能強化の必要性は理解できる。

進め方（全体）

検討の進め方（動機、計画期間、決定主体等）

[コミュニケーション]

- 市民相談会の開催について高く評価する。
- 継続的に説明会や対話の機会を設けてほしい。

検討の進め方（プロセス）

[受益と負担、公益性等のバランス]

- 飛行経路をできるだけ分散させて、特定の地域のみが負担を負わないようにしてほしい。
- 広範囲にメリットがもたらされるとしても、負担は飛行経路下の一部の住民に集中するのは不公平だ。
- 東京と千葉の住民が平等に騒音の負担を負う様に、現飛行経路と新飛行経路の運航時間帯を考えるべきだ。
- 新飛行経路は千葉県民にも配慮したものになっている。
- 国全体の利益だけでなく、日常生活に影響のある人のことも考えて、慎重に検討を進めてほしい。

[計画決定時期]

- 新飛行経路をできるだけ早く実現して、騒音を分散してほしい。

コミュニケーション方法

[周知]

- 今回の提案について、もっと多くの人に周知すべき。

[説明会の開催場所・日時・回数]

- よりきめ細かく開催してほしい。影響があるのに説明会が近隣で開催されない地区がある。
- 通りがかりの人も説明会を行っていることがわかる工夫が必要。

[意見の反映]

- 住民の意見をしっかりと聞き、反映してほしい。
- 飛行経路などの決定前に情報公開し、意見を聞いてほしい。

[説明や対話の手法]

- 機能強化の必要性や実現方策が理解でき、意見や質問が個別に言えるので、この様な説明会が開催されるのは良い。
- 今回の説明を聞いて不安が解消し安心した。
- 住民間で意見共有がしにくい。集会型、教室型の説明会も開催してほしい。
- ホームページコンテンツを更に充実し、更新頻度も高めるべき。

[その他]

- 特設電話窓口の受付時間が短い。夜間・休日も開けるべき。
- HP からメールで意見送信ができると言っているにも関わらず不具合が続いており、意見を聞く姿勢が感じられない。

情報提供

[更なる情報提供]

- 現飛行経路に関するより詳しい情報がほしい。
- 飛行経路や運用情報をHP等でわかりやすく示してほしい。
- 環境影響に関する情報を教えてほしい。たとえば、環境影響調査や環境アセスメントなどを示してほしい。
- 高度引き上げに伴う新飛行経路の一部修正の経緯や、音や高度などがどのように変わるのかについて詳細な情報がほしい。
- 飛行経路や高度、騒音の範囲など、より詳細に示してほしい。
- 諸外国での取り組みについても紹介してほしい。

[わかりやすさ]

- 住民にとってわかりやすい情報提供を心がけてほしい。
- 説明内容がよくわかった。理解できた。
- 聞き手に合った説明を受け、普段の疑問が解決した。
- 騒音影響の評価指標をLden（24時間平均）にすることで、影響範囲を意図的に狭めているのではないかと。

[表現方法の工夫（音や映像等による再現など）]

- 想定される音や見え方を体感できるコーナーがあつてよかった。
- 説明資料は、表現や文字の大きさにも配慮してほしい。

■ ホームページから ご意見フォームから直接投稿できます。

<http://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

羽田空港のこれから 検索



■ 電話でのご意見は

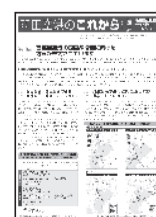
Tel 0570-001-160
(IP電話からは、03-5908-2420)

『国土交通省「羽田空港のこれから」に関するご意見窓口』
受付時間：平日 9:30 ~ 19:00

■ ホームページに掲載されているバックナンバー



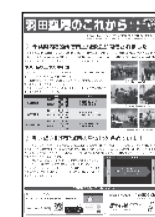
展示パネル



ニュースレター
2016年夏



ニュースレター
2016年冬



ニュースレター
2017年夏



ニュースレター
2018年立春